

これからの組織のあり方・マネジメントを次世代型経営モデルから指し示す
「KAIKA Awards 2018」受賞決定
KAIKA大賞は、キュービーネットホールディングス株式会社
沢根スプリング株式会社

～社会価値を生み出す持続的な経営・組織・人づくりを行っている取り組みを表彰～

一般社団法人日本能率協会（JMA、会長：中村正己）は、社会価値を生み出す持続的な経営・組織・人づくりを行っている取り組みを称え、紹介するための表彰制度として「KAIKA Awards（カイクアワード）」を設けています。2018年度は公募による応募組織のなかから審査委員会（委員長：一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 代表理事 有馬利男氏）の審議を経て、「KAIKA大賞」2組織ならびに「KAIKA賞」7組織を決定しました。また、審査委員会の推薦により、我が国の災害復興に関連する優れた活動を行う2組織に「特別賞」の贈賞を決定しました。他に、応募の中からテーマの重要性、取り組み方のユニークさ等をもつ8組織を「特選紹介事例」として決定しました。

本賞は、変化・多様化する経済・社会情勢において、「個人の成長」「組織の活性化」「社会とのつながり」を軸に、組織風土や意識の改革、仕組みづくりなどの活動に取り組んでいる好事例に対して、そのプロセスや成功要因、現場の知恵、社会的な意義などを共有し、部署・社内にとどまりがちなノウハウを顕在化させ、活動に取り組んでいる個人や組織にエールを送ることを目的に2014年より実施しています。

【KAIKA Awards 2018 受賞結果】

（組織名五十音順）

■KAIKA 大賞

キュービーネットホールディングス株式会社	「業界常識を覆してでも実行した、全社レベルの人間醸造大逆転劇」
沢根スプリング株式会社	「『楽しみ方改革』で幸せな働き方を目指して ～『世界最速工場』をミッションに心はずむものづくりを～」

■KAIKA 賞

株式会社垣内	「創業者のDNAを活かした会社づくり」
株式会社 global bridge HOLDINGS	「新たな共生社会の実現に向けた世代間交流施設とその運営を担う ために必要となる高い専門性を持った人財を育成する教育制度」
有限会社たこ梅	「スタッフさんの内的・外的の両面の成長をサポートし、 組織としても成長する」
千葉オイレッシュ株式会社	「環境に関わるリサイクルの推進と人を大切にすることをめざして」
一般社団法人 富士山チャレンジプラットフォーム	「富士山登山における事前防災サービス創出プロジェクト」
松川電気株式会社	「知恩報恩『社員の幸福と地域社会への恩返し』 ～松川一家のめざすもの～」
ONE JAPAN	「大企業若手有志 50 社による実践共同体『ONE JAPAN』の挑戦」

■特別賞

特定非営利活動法人 医療・健康社会研究所	「地域の医療を守るプロジェクト ～福島を中心にした若手医師の地域啓発活動～」
福島県立ふたば未来学園高等学校	「課題先進地域における教育の灯」 ～『未来創造探究』を核とした、ふたば未来学園の取り組み～」

■特選紹介事例（テーマの重要性、取り組み方のユニークさ等において特筆すべき活動を贈賞とは別に選出）

株式会社オカムラ	「『はたらく』を考えるビジネス誌『WORK MILL』刊行」
株式会社障がい者つくし更生会	「障がいがあっても、事業の成立を実証するモデル企業になる」
株式会社太陽住建	「全関係者がハッピー 屋上太陽光発電設置モデル」
株式会社竹中工務店 CSR 推進部 NPO 法人アソシエーション・アーキテクト・フレンドシップ	「『プロボノによるネパールフィリム村での学校建築プロジェクト』 を通じた社会価値創造と社会課題解決マインドの組織内醸成」
株式会社西尾硝子鏡工業所	「組織開発による戦略の浸透と社員とのコミュニケーションの活性化」
日清食品ホールディングス株式会社 広報部 CSR 推進室	「百福士プロジェクト第 21 弾 『～創業 60 周年記念 スマートワーク推進～ 六十年寝太郎プロジェクト』」
富士フイルム株式会社 宣伝部	「“PHOTO IS” 想いをつなぐ。50,000 人の写真展」
株式会社ホリパコミュニティ	「HORIBA Blueberry Farm “Joy & Fun”の活動を通じた健康経営の実践と CSR 課題の解決」

【KAIKA Awards 2018について】

日本能率協会（JMA）では、「個の成長、組織の活性化、組織の社会性（広がり）」を同時に実現していく運動を「KAIKA」と定義し、その取り組みを促進・支援する活動を行っています。「KAIKA」は開花・開化を語源とする造語です。社会課題の解決につながる、組織としての力強い取り組みや画期的な取り組みを、表彰を通じて紹介することにより、活力ある経営・組織が増えていくことを目指しています。

審査は、①継続・発展の可能性、②力強さ・新しさ・ユニーク性、③影響力と変化（社会的意義と価値、意識や関係性の変化、個人の成長と組織力の発揮）の観点から、審査委員会および審査委員会から委嘱された検討委員による書類審査・現地ヒアリングを行い、その結果、「KAIKA 大賞」「KAIKA 賞」を決定しました。

また、大きな災害が続いている我が国の復興支援活動において、「個人」「組織」「社会」が相互に影響し合う動的な関係性を持ち、共通善を持つという考え方で、地域のコミュニティ、街づくりに本質的に貢献する活動に焦点をあて紹介することを目的に、本年度は 2 組織について「特別賞」を贈賞しました。

あわせて、テーマの重要性、取り組み方のユニークさ等をもつ活動を、贈賞とは別に「特選紹介事例」として選出しました。いずれも、次世代組織を模索する特色のある取り組みです。

表彰式（および大賞事例発表・解説）は、2019年2月20日（水）10時00分より赤坂インターシティコンファレンス「the AIR」（港区・溜池山王「赤坂インターシティAIR」4F）にて行います。詳細はこちらをご覧ください。

(<https://kaikaproject.net/awards/>)

1. 公募対象

- ・「KAIKA」の意義を認め実践している組織。
- ・全社、全組織ならびに事業部、部門、プロジェクトなどの組織単位。

2. 賞の種類

- ・KAIKA大賞
- ・KAIKA賞
- ・特別賞

3. 受賞要件

- ・KAIKAモデルの実践＜個の成長、組織の活性化、組織の社会性（広がり）＞がはかられつつあり、ねらった成果に近づくことが予見されること。
- ・「継続・発展の可能性」「力強さ・新しさ・ユニーク性」「影響力と変化（社会的意義と価値、意識や関係性の変化、個人の成長と組織力の発揮）」が認められる活動であること。

4. 審査

1) 審査概要

審査は、以下に従い実施しました。審査委員会は実務家、学識者、専門家等の第三者機関として構成され、審査プロセスの一部は、検討委員に委嘱して実行します。

- ①一次審査(書類審査) 応募組織から提出された書類の審査
- ②二次審査(現地審査) 応募組織の関係者へのヒアリングによる審査
- ③最終審査(委員会) 審査委員会による審査
- ④決定

注) 特別賞は推薦、現地ヒアリング、委員会審議を経て決定しました。

2) 審査体制

< 審査委員会 >

(敬称略・氏名五十音順)

(委員長)

- ・ 有馬 利男 (一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 代表理事)

(委員)

- ・ 飯塚 まり (同志社大学大学院 ビジネス研究科 教授)
- ・ 大久保和孝 (新日本有限責任監査法人 経営専務理事)
- ・ 河合 太介 (株式会社道 代表取締役)
- ・ 河口真理子 (株式会社大和総研 調査本部 主席研究員)
- ・ 琴坂 将広 (慶應義塾大学 総合政策学部 准教授)
- ・ 挽野 元 (アイロボットジャパン合同会社 代表執行役員社長)
- ・ 水上 武彦 (株式会社クレアン チーフ CSV オフィサー)
- ・ 山口 範雄 (味の素株式会社 特別顧問)

(検討委員) ※上記審査委員会からの委嘱を受けて審査プロセスの一部を担当する検討委員制度を運用。

- ・ 安斎 徹 (目白大学 メディア学部 メディア学科教授)
- ・ 岩崎 徹 (宇部興産建材株式会社 常務取締役)
- ・ 上田 雅美 (株式会社アネゴ企画 代表取締役)
- ・ 江夏幾多郎 (名古屋大学大学院 経済学研究科 准教授)
- ・ 大島由起子 (インフォテクノスコンサルティング株式会社
セールス・マーケティング事業部長)
- ・ 太田 大作 (株式会社日本能率協会コンサルティング 常任顧問/
株式会社クロスオーバー 代表取締役社長)
- ・ 小野 善生 (滋賀大学 経済学部 教授)
- ・ 桐野 将明 (KEY ISSUES 有限会社 代表取締役)
- ・ 合力 知工 (福岡大学 商学部 教授)
- ・ 千田 直毅 (神戸学院大学 経営学部 准教授)
- ・ 田中 信 (一般社団法人チームスキル研究所 研究所長)
- ・ 中西 匠 (air brand studios 株式会社 代表取締役/
株式会社 UES パートナーズ 執行役員)
- ・ 野口 義文 (立命館大学 研究部事務部長 産学官連携戦略本部 副本部長)
- ・ 廣岡 久生 (コンソリレーション 代表コンサルタント)
- ・ 宮崎百合子 (株式会社クレネ 代表取締役)
- ・ 山下 勝 (青山学院大学 経営学部 教授)
- ・ 山田 竜也 (株式会社インディージャパン 取締役トレーニングディレクター)

【本件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人日本能率協会 KAIKA 研究所 TEL : 03-3434-0380 FAX : 03-4540-8325 E-mail: kaika@jma.or.jp	PR 事務局 共同ピーアール株式会社内 (担当: 都築、大塚、阿蘇品) TEL : 03-3571-5204 (部署直通) FAX : 03-4540-8325 E-mail: jma-pr@kyodo-pr.co.jp
---	--

受賞内容の詳細は

<https://kyodo-pr.box.com/v/kaikaawards2018> に掲出しております。

「KAIKA 大賞」

(組織名五十音順)

●キュービーネットホールディングス株式会社 <全社・全組織の部>受賞テーマ：「**業界常識を覆してでも実行した、全社レベルの人間醸造大逆転劇**」**取り組み概要**

- ・職人気質の強い同業界にあって、業界の慣行やしきたり、従業員の意識変革など、これまでの固定観念を打破していく取り組みとして、社内のカットスクール「ロジスカット」を展開した。同時に上長評価ではなく、試験によって自らの給与を引き上げる「チャレンジ制度」や、勤怠状況と試験によって店長になれる「店長育成制度」など、人事評価制度の見直しを実施。サービスの質、人間力向上、働く環境の3つの課題に対して劇的な改善を進めた。
- ・特に、「ロジスカット」は、個人・職人ノウハウをオープンにしていく新しい取り組みで、「背中を見て学ぶ」といった業界慣習を変えつつある点において社会的な意義は大きい。理容・美容業界のいわゆる閉鎖的な気質に風穴を開け、業界常識を覆してでも実行、年齢に関係なく若手～シニアまでが自身の技術に自信を持って仕事に取り組むことができる全社レベルの人間教育といえる。

《会社概要》

住 所 : 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-24 東建・長井ビル 7階
 Web サイト : <http://www.qbnet.jp/>
 代表者 : 北野 泰男 (代表取締役)
 事業内容 : ヘアカット専門店「QBハウス」を東日本中心に展開し、香港、台湾など海外にも進出

●沢根スプリング株式会社 <全社・全組織の部>

受賞テーマ：「『**楽しみ方改革**』で幸せな働き方を目指して
 ～『**世界最速工場**』をミッションに心はずむものづくりを～」

取り組み概要

- ・過酷な価格競争からの脱却を目指し、効率一辺倒だった仕組みの見直しを行った事例。大口の大量生産に対し、ロットは小さくても多くの顧客と取引をすれば経営の安定化を図ることができると考え、従来のマニュアルや作業標準書を中心とした効率主義一辺倒のものづくりから、毎回図面が異なる小ロット品の製作により個々人の考える力を醸成し、ものづくりの楽しさや自己成長を感じられるものづくりへと変化を遂げた。また、受注生産指示ルートを改革、生産方法においても一人完結型の製作により、少量品は受注後翌々日出荷が可能となっている。
- ・事業領域のシフトによって培われた小ロット品の技術や顧客業界の広がりをもとに、医療関係などの新規事業領域への進出も行われている。小ロット品は自ら考え、人にも相談するケースも増えるなど、仲間意識の醸成にもつながってきている。自ら「考える」機会を与えられることで、社員一人ひとりが成長と働く楽しさ実感している。

《会社概要》

住 所 : 〒432-8523 静岡県浜松市南区小沢渡町 1356
 Web サイト : <https://www.sawane.co.jp/>
 代表者 : 沢根 孝佳 (代表取締役)
 事業内容 : 各種ばね及び関連製品の製造販売

「KAIKA賞」

(組織名五十音順)

●株式会社垣内 < 全社・全組織の部 >受賞テーマ：「**創業者のDNAを活かした会社づくり**」**取り組み概要**

- ・「高知のエジソン」と語り継がれている創業者のDNAを大切にしながら、100種類を超える製品を世に送り出すなど斬新なアイデアと優れた技術力で地域産業の発展に貢献している。無振動、無騒音等環境に優しい建設工法に寄与しているサイレントパイラーの共同開発や、「有機肥料ペレットを造る、冷やす、散布する」機械の開発、販売など有機肥料分野での国内トップメーカーを目指した取組みを推進している。
- ・県内農業団体との業務提携による農業用機械の共同開発を進める一方で、協力企業のネットワーク化を図り、技術研修、品質勉強会、先進現場視察を実施するなど、「事業・製品開発」と「人材育成・組織づくり」の両輪を進めている。

《会社概要》

住 所 : 〒783-0049 高知県南国市岡豊町中島 391-8
 Web サイト : <http://kk-kakiuchi.co.jp/>
 代 表 者 : 安岡 和彦 (代表取締役社長)
 事業内容 : 産業用機械製造

●株式会社 global bridge HOLDINGS < 全社・全組織の部 >

受賞テーマ：「**新たな共生社会の実現に向けた世代間交流施設と
 その運営を担うために必要となる高い専門性を持った人財を育成する教育制度**」

取り組み概要

- ・「日本の人口問題解決」を使命とし保育・介護事業の運営等を手掛けている。保育・介護施設の職員は、その専門性を高めることが困難な社会構造的な問題を抱えているが、特に施設長を中心とした「マネジメント力および専門性の継続的な向上」を目的に、独自にライセンス制度を導入した。プレゼンテーション力およびコミュニケーション力、数値・係数管理力の3つの試験と役職者との面接を行うとともに、更新には、学会等への査読付き論文の提出を義務付けた「Progress in Quality 制度（「PIQ」）」を制定、継続的な専門性向上のための教育制度を構築している。
- ・同制度により、業界としては低い離職率や職員の学習意欲の向上などが表れている。
- ・民間での取り組みとしてユニークであり、福祉事業所職員の専門家としての地位と意識の向上、さらにサービスの質の向上を、外部研究者やプロフェッショナルを巻き込んで展開している点は業界全体へも大きな影響を与えるものとなる。

《会社概要》

住 所 : 〒130-0013 東京都墨田区錦糸 1-2-1 アルカセントラル 16F
 Web サイト : <https://globalbridge-hd.com/>
 代 表 者 : 貞松 成 (代表取締役 CEO)
 事業内容 : 保育事業・介護事業・ICT事業のグループ会社の経営管理、並びにそれに付帯する業務

●有限会社たこ梅 <全社・全組織の部>

受賞テーマ：「スタッフさんの内的・外的の両面の成長をサポートし、組織として成長する」

取り組み概要

- ・170年以上続く「おでん屋」の同社は、「お客さんが親から子、先輩から後輩、友から友へ、つながる！そんな場として百年後も、存在しているようにすること」を目指し、2010年に組織テーマを「学習する組織」と定め本格的に活動をスタート。「学習する組織」構築の構造と手法を、3つの枠組みに整理し、研修が実践されるシステムにより個の成長を促進。自律的に稼働する組織に成長することで、社会の変化や事業継承にも対応しうる組織へと変化を遂げている。
- ・9年に及ぶ取り組みの成果は、店舗運営の考え方・理解が共通認識され、共通言語で意見が述べられるようになったことや、社員の自主性が向上することとして現れており、業績はもとより多種イベントの実行と顧客との繋がりの強化や広がりなどへと展開している。

《会社概要》

住 所 : 〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中 3-17-8
 Web サイト : <https://takoume.jp>
 代表者 : 岡田 哲生 (雑用係 兼 五代目店主)
 事業内容 : 弘化元年 (1844年) から 170年以上続く「おでん屋」

●千葉オイレッシュ株式会社 <全社・全組織の部>

受賞テーマ：「環境に関わるリサイクルの推進と人を大切にする会社をめざして」

取り組み概要

- ・1981年から廃油リサイクル事業を中心とした産業廃棄物の再資源化事業を展開。「環境事業を通じて地域社会から必要とされる会社を目指す」を目的に、安心して安全なエネルギーのあり方、そして地球環境への思いを、品質のよいリサイクル率向上や安全に関する技術開発により地域社会から必要とされる会社として、創業以来、黒字・無事故経営を継続している。
- ・「地域で会社を持続させる」ために、人を大切にする経営を心がけ、都会で働いている社員と同じ経営環境、待遇面での仕事ができるよう賃金水準を高くすると同時に、社員に対する経営内容の公開、毎月の業務改善提案書の提出と実行（結果の共有）、休暇の取りやすさなど、社員に開かれた経営を行っている。取り組みを始め、2000年以降には離職者がゼロになっている。

《会社概要》

住 所 : 〒292-0526 千葉県君津市笹 1266
 Web サイト : <http://www.oilshu.co.jp/>
 代表者 : 野村 進一 (代表取締役社長)
 事業内容 : 潤滑油、再生油の製造販売、産業廃棄物再資源化事業

●一般社団法人 富士山チャレンジプラットフォーム <全社・全組織の部>

受賞テーマ：「富士山登山における事前防災サービス創出プロジェクト」

取り組み概要

- ・2014年の多くの登山者が犠牲となった御嶽山噴火災害は、要救助者の「情報収集」が困難であり、安否情報を行政機関や地元自治体間で共有することが出来なかったことが今後の大きな課題と認識された。この災害が登山者の安全確保を考える契機となり、建設、通信、端末、情報分析など12企業が参画する同法人が設立された。現在、登山者の動態データに基づいた登山システムの導入の検討や実証実験を展開している。
- ・本活動は、小型のビーコンを活用したシステムでデータを収集分析し、リアルタイムでの登山者行動履歴のほか、特定の時間帯や箇所での登山者の過密状態を「見える化」するなど、データに基づく富士山登山の実態把握を行い、平時での登山者混雑緩和や非常時における情報伝達や避難誘導へのデータ利活用を目指す取り組みを行っている。

《会社概要》

- 住 所 : 〒105-0023 東京都港区芝浦 1-8-3 902
 Web サイト : <https://www.fujisanchallenge.or.jp/>
 代表者 : 田中 義朗 (代表)
 事業内容 : 富士山における登山者・観光客の安心安全システムの社会実装を目指し、様々な現地実証実験を通して、地域における事前防災等にかかる課題解決に寄与することを目的とし、「富士山チャレンジ事業」を推進

●松川電気株式会社 <全社・全組織の部>

受賞テーマ：「知恩報恩『社員の幸福と地域社会への恩返し』～松川一家のめざすもの～」

取り組み概要

- ・50周年を機に経営理念の再定義を行った同社は、すべての事業・活動が「社員の幸福追求と地域社会への恩返し」と定義し活動を愚直に展開している。事業においては、下請けはやらない、手形払いはしないなどのビジネスポリシーを持ち、再定義した理念の「人」と「社会性」の力で組織運営を行っている。
- ・昔気質の気難しい職人ではなく、顧客・地域に寄り添うことのできる人格教育を目指しており、定年実質廃止、施工の申し出制、「松村塾」や「一野塾」など社員講師による社員育成を始めとする研修会の実施のほか、街頭募金、ボランティア休暇などの社会貢献活動にも熱心に取り組んでいる。
- ・社員は個別に仕事はもとより自分づくりやCSR、環境への貢献などについて、月別の「目標達成状況シート」に落とし込み、必ず社長とやりとりをするなど、経営理念に沿った社員の自主性も醸成している。

《会社概要》

- 住 所 : 〒431-3121 静岡県浜松市東区有玉北町 65-1
 Web サイト : <http://matsukawadenki.com/>
 代表者 : 小澤 邦比呂 (代表取締役)
 事業内容 : 特別高圧、高圧受変電他総合電気の取り扱い。

●ONE JAPAN <プロジェクト・部門の部>

受賞テーマ：「大企業若手有志 50 社による実践共同体『ONE JAPAN』の挑戦」

取り組み概要

- ・大企業の若手/中堅社員による有志活動を横串でつなげた実践共同体。いわゆる「大企業病」に悩む若者が自らの意志で動き出し、大企業や世の中のリソースを活用して新しい価値を生み出そうと、50社1,700名が参加し、様々な活動が行われている。
- ・主体的個人&チームが「失敗を恐れない」アクションを同時多発的に実践している。越境学習、オープンイノベーションにつながる「共創」と、それらを促進/継続させる「変化の土壌づくり」の両輪を狙う。三越伊勢丹と ONE JAPAN 参加企業によるファッションやライフスタイル製品のシェアリングサービスなどの具体的事業も生まれ、今後も新サービスが複数リリースされる予定。
- ・若手主導の活動であるが、各人が所属する各企業において同僚・先輩・上司の理解・支持を得られることも増えてきており、周囲を巻き込みながら、更なる活動の拡大が期待される。

《会社概要》

- 住 所 : 有志団体のため住所なし
- Web サイト : <https://onejapan.jp/>
- 代 表 者 : 濱松 誠 (代表)
- 事業内容 : 大企業の若手/中堅社員の有志活動をつなげ、コレクティブインパクトを起こすプロジェクト

「特別賞」

特別賞は、被災地域における復興支援活動のなかでも地域のコミュニティー、街づくりに本質的に貢献する活動に焦点をあて2組織を審査委員会選出により贈賞しました。

(組織名五十音順)

●特定非営利活動法人 医療・健康社会研究所

受賞テーマ：「地域の医療を守るプロジェクト～福島を中心にした若手医師の地域啓発活動～」

取り組み概要

- ・若手医師ネットワークによる地域啓発活動。個々の医師らはそれぞれの専門分野やテーマを持ちながら、福島を中心にした診療なども行っている。毎週メンバーが相馬中央病院に集まり、各テーマの進捗や今後の地域医療のあり方について報告・情報交換を行っている。また、これらをデータ化し論文などにまとめ、自治体・医療現場・地域コミュニティーに講演会や説明会などを通じて正しい情報を提供することで、さらなる地域医療につなげる活動を行っている。
- ・震災後の福島は原発・放射線被害にフォーカスされがちだが、様々な病気や健康不調については放射線自体の問題ではなく、コミュニティーが崩壊したこと（病院に行くのが遅れる、周りで気がつく人がいないなど）や風評が問題の本質であることが多い。同ネットワークの活動は、それらを正しく理解してもらうための活動ともいえる。
- ・若手医師にとっては診療のみならず、課題を明確化し、データを分析し、その分析を現場にフィードバックしつなげる、というPDCAを実践できる場であり、医師そして地域医療が互いに進展していく活動である。

《組織概要》

住 所 : 〒108-0074 東京都港区高輪 2-12-13 レジデンス高輪 201 号室
代 表 者 : 坪倉 正治 (理事長)

●福島県立ふたば未来学園高等学校

受賞テーマ：「課題先進地域における教育の灯～『未来創造探究』を核とした、ふたば未来学園の取り組み～」

取り組み概要

- ・震災前双葉郡に5校あった県立高校は、元の校舎での授業再開のめどが立たず、生徒の募集を停止。「双葉の教育の灯を絶やすことなく灯し続けたい」という願いと、復興を実現し、先進的な新しい教育を創造しようとする国など関係機関の想い、そして、震災後子どもたちの中に芽生えた、復興をなしとげようとする強固な意志、夢を実現しようとする意欲、新しい価値観、創造性、高い志を礎として、「自らを変革し、地域を変革し、社会を変革する変革者たれ」を建学の精神に平成27年4月に誕生した。
- ・学園の学びの核となる授業「未来創造探究（総合的な学習の時間）」では、生徒たちが課題先進地域となった双葉郡の課題に向き合い、風評払拭やコミュニティー再生などの課題解決のための実践（アクション）に取り組んでいる。生徒の代表は毎年この成果を国連本部で提言し、ローカルな課題とグローバルな課題とを紐付けて思考を深めていく。
- ・こうした授業を展開するために、地域、企業、大学等とも密な連携を行い、校内にNPOが常駐し教員と協働して授業を展開する体制を構築する等、ふたば未来学園のカリキュラムと学校運営の形は、全国のモデルとして注目され、全国の教育関係者の視察も相次いでいる。

《組織概要》

住 所 : 〒979-0403 福島県双葉郡広野町下浅見川築地 12
Web サイト : <https://futabamiraigakuen-h.fcs.ed.jp/>
代 表 者 : 丹野 純一 (校長)

「特選紹介事例」

特選紹介事例は、テーマの重要性や取り組み方のユニークさ等をもつ8組織を、贈賞とは別に選出したものです。

(組織名五十音順)

●株式会社オカムラ <全社・全組織の部>

テーマ：『はたらく』を考えるビジネス誌『WORK MILL』刊行

取り組み概要

- ・働き方改革推進プロジェクト「WORK MILL」の一環としてビジネス誌「WORK MILL with Forbes JAPAN」を発刊。社会との接点を持つことを目的に、企業色を少なくして販売誌として位置づけ。世界的な経済紙の編集部と組んで制作することで、個人・組織に新しいつながりや反応が生まれ始めている。
- ・同誌は営業ツールとして活用、建築・インテリア業界での認知向上のほか、「WORK MILL」プロジェクト全体でも多様なステークホルダーとの活動を行う共創空間の企画・立ち上げなど、社内外に活動が拡大している。
- ・社員においては、顧客への『働き方改革』の新しい提案に繋がるなどの評価のほか、「このような提案・活動をしているので働き方改革が進んでいる、知見や経験がある」という外部からの期待が社内の働き方改革意識に反映され、残業時間削減や ICT など各種ツール・人事施策の活用につながってきている。

《組織概要》

住 所 : 〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 1-4-1 天理ビル 19 階
 Web サイト : <http://www.okamura.co.jp/>
 代表者 : 中村 雅行 (代表取締役社長)
 事業内容 : スチール家具、産業機器の製造販売

●株式会社障がい者つくし更生会 <全社・全組織の部>

テーマ：「障がいがあっても、事業の成立を実証するモデル企業になる」

取り組み概要

- ・「廃棄物処理」と「障がい者雇用」は大きな社会的課題であるが、35年間、この2つの課題に対する取り組みを、同時にビジネスという形、かつ社員満足度を高い状態に維持して行っている事例。
- ・「株式会社」の形態をとりビジネスであることを前提に（補助金などなし）、ISO 取得や各種資格取得など社員を巻き込みながら運営している。障がい者に仕事を覚えてもらう手順は、自社の経験や学びにより実践、多様性を受け入れる会社としての度量が社員につながり質の高い業務を提供している。全社的・部署勉強会だけでなく、社員による技術のコーチングなど、社員参加型の組織運営にも取り組んでおり、社員の会社への満足度は高く、定着率は実質 100%（定年などは除く）となっている。

《組織概要》

住 所 : 〒816-0955 福岡県大野城市上大利 5-15-28
 Web サイト : <http://www.csf.ne.jp/~tukusi-2/>
 代表者 : 山北 秀男 (代表取締役)
 事業内容 : 不燃性一般廃棄物中間処理施設運転・管理等

●株式会社太陽住建 < 全社・全組織の部 >

テーマ：「全関係者がハッピー 屋上太陽光発電設置モデル」

取り組み概要

- ・横浜市リビングラボの取組やボランティア活動など地域に根付いた活動をベースとしたリフォーム事業とともに、活用されていない公共施設や病院、社会福祉施設などの屋上を借りて太陽光発電システムを設置し、それを電気の売電をしたい希望者に販売する屋上太陽光発電設置モデルを実施、架台工事やパネル設置などで障がい者・シニア活用を実践している。
- ・障がい者や高齢者の就労環境をつくることで、本人にやり甲斐や肯定感を感じる場を提供すると共に、一緒に作業する社員の社会性向上のほか、建設（リフォーム）業界の人手不足解決の寄与も目指している。さらに、自立的なボランティア活動や同社以外の仕事（副業）なども容認されており、社員の働きがい・やりがいにつなげている。

《組織概要》

住 所 : 〒232-0053 神奈川県横浜市南区井土ヶ谷下町 6-1
 Web サイト : <https://www.taiyojyuken.jp/>
 代表者 : 河原 勇輝（代表取締役社長）
 事業内容 : マンションやアパートのリフォーム工事・太陽光発電事業

●株式会社竹中工務店 CSR 推進部/NPO 法人アジアン・アーキテチャ・フレンドシップ < プロジェクト・部門の部 >

テーマ：『プロボノによるネパールフィリム村での学校建築プロジェクト』を通じた
 社会価値創造と社会課題解決マインドの組織内醸成」

取り組み概要

- ・社内有志が 1999 年から任意団体 AAF を設立し、ネパール北部ヒマラヤ山麓の村に貧困などが原因で学校に通えない子供たちのために学校建築を行うプロジェクトとしてスタート。2015 年にそのプロボノ活動を本社 CSR 推進部が中心となり本社支援のもと NPO 法人化、CSR や総務は同運営をサポートし、本社社員は寄付やバザーなどの形で同支援をサポートすることで活動を続けている。また、社内研修の事例として活用し、社員の社会課題解決マインド醸成にも役立っている。
- ・「まちづくり総合企業」として、現地に沿った建築づくりのみならず、教育体系作り、街づくり、協力体制づくりなど、周辺を理解し進めることで、関わった方が多様性を理解しプロジェクトを進める必要性が理解できる場となっている。

《組織概要》

住 所 : 〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町 4-1-13
 Web サイト : <http://www.takenaka.co.jp/>
 代表者 : 宮下 正裕（取締役社長）
 事業内容 : 建築工事及び土木工事に関する請負、設計及び監理

●株式会社西尾硝子鏡工業所 < 全社・全組織の部 >

テーマ：「組織開発による戦略の浸透と社員とのコミュニケーションの活性化」

取り組み概要

- ・業績悪化、リストラを機に「組織開発」の手法にもとづき、社長のみならず、幹部をはじめとするチームで運営をしていく組織への抜本的な改革を 2011 年 6 月から開始。「家業」から「企業」への変化を図り、実践・成果をあげた事例。
- ・最初の 1 年は社長と幹部で、2 年目以降は全社員を巻き込んだ取り組みへと展開。財務や組織体制などのハードと、想いの共有や関係性構築のソフト部分を個人と組織の両サイドから戦略的に統合させて変革、そして個人の力を引き出すなど、地道に自社に合った取り組みや施策をひとつひとつ丁寧に実施・手掛けている。現在も進化の途上にあり、事業発展計画書を軸に、社内への戦略の浸透を図っており、全体の仕組みが改善、向上している。

《組織概要》

住 所 : 〒143-0016 東京都大田区大森北 5-9-12
 Web サイト : <http://www.nishio-m.co.jp/>
 代表者 : 西尾 智之 (代表取締役)
 事業内容 : 一般板ガラス・鏡の加工卸、内装工事

●日清食品ホールディングス株式会社 広報部 CSR 推進室 < プロジェクト・部門の部 >

テーマ：「百福士プロジェクト第 21 弾

『～創業 60 周年記念 スマートワーク推進～ 六十年寝太郎プロジェクト』

取り組み概要

- ・日清食品グループは、社会貢献活動への取り組みに熱心だった創業者・安藤百福の志を継ぎ、創業 50 周年にあたる 2008 年から、2058 年までの 50 年間に 100 の社会貢献を行う社員参加型の CSR 活動「百福士プロジェクト」を継続的に実施している。
- ・その第 21 弾となる『～創業 60 周年記念 スマートワーク推進～ 六十年寝太郎プロジェクト』は、同グループが 2018 年に創業 60 周年を迎えることにちなみ、参加者にウェアラブル活動量計を配布して、プロジェクト参加者の累計睡眠時間が 60 年に達するまで継続するプロジェクト。各自に自身の睡眠状態を把握してもらい、睡眠の質を高め睡眠不足を解消することで、生活習慣改善と生産性向上を図った。現在は終了しているが、継続的に睡眠を意識している社員もおり、健康増進などに寄与している。

《組織概要》

住 所 : 〒160-8524 東京都新宿区新宿 6-28-1
 Web サイト : <https://www.nissin.com/jp/about/nissinfoods-holdings//>
 代表者 : 安藤 宏基 (代表取締役社長・CEO)
 事業内容 : 持株会社として、グループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理。

●富士フイルム株式会社 宣伝部 <プロジェクト・部門の部>

テーマ : 「“PHOTO IS” 想いをつなぐ。50,000 人の写真展」

取り組み概要

- ・2006 年から富士フイルムが行っている日本最大級の写真展。選ばれた作品が展示されるのではなく、応募者全員の作品が“その写真に込められた出展者の想い”とともに会場に展示される参加型であることが特徴。
- ・グループにおける部門横断的な取り組みであり、販売店と協力して応募を募ることから取引先との関係強化なども兼ねている。また、リアルの場合であるからこそその手書きのメッセージや自筆アンケートなど、SNS の時代に取って代わってアナログコミュニケーションが図られており、企業と人、人と人とのコミュニケーションが、主催する社員にも新しい価値を認識させている。他企業においても社会とのコミュニケーションのとり方・考え方という意味においても示唆がある。

《組織概要》

住 所 : 〒107-0052 東京都港区赤坂 9-7-3
 Web サイト : <https://fujifilm.jp/>
 代表者 : 古森重隆 (代表取締役会長・CEO)
 事業内容 : イメージング ソリューション、ヘルスケア&マテリアルズソリューションの開発、製造、販売、サービス

●株式会社ホリバコミュニティ <全社・全組織の部>

テーマ : 「HORIBA Blueberry Farm “Joy&Fun” の活動を通じた健康経営の実践と CSR 課題の解決」

取り組み概要

- ・ホリバコミュニティは、1978 年 1 月、堀場製作所の社是「おもしろおかしく」の実現を福利厚生 の断面からサポートするため、社員 60%、堀場製作所 40%の出資で設立された。
- ・同社が管理する HORIBA Blueberry Farm は、耕作放棄地の活用による地域貢献、有機栽培の推進による環境負荷低減、また農作業を通じた心身の健康増進が HORIBA の健康経営に資するとの考えで、2012 年より地域と共に運営をスタートした。
- ・種まきや収穫等の農作業イベントには、年間 1,200 名の社員と家族が参加している。イベントは、年代や部門を越えて活発なコミュニケーションを取る場であり、環境意識を醸成する場となっている。収穫物は社員食堂での利用やジャム等の手土産として製品化。さらに、近年では、新入社員が自社製品を使って土壌計測を行い、ユーザーオリエンテッドな製品開発や営業活動を考える研修の場としても活用している。

《組織概要》

住 所 : 〒601-8305 京都市南区吉祥院宮の東町 2 番地
 Web サイト : <http://www.horiba.com/jp/>
 代表者 : 堀場 厚 (株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼グループ CEO)
 事業内容 : HORIBA グループ従業員向け福利厚生サービスの提供

以上